



## 好奇心との付き合い方

こんにちは、大阪大学の西川広記です。夏休みが終わり、二学期（あるいは秋学期）が始まろうとしていますね。最近の暑さには本当に参ってしまいますね。

さて、今回は好奇心との付き合い方についてお話ししたいと思います。皆さんは、情報過多な現代社会において、自分が何をしたいのか、何者になりたいのかで迷ってしまうことはありませんか。身近な例として、高校生であれば、自分が文系に進むか理系に進むか、あるいは、大学進学でどの学部に進むかなど、自身のやりたいことが何かを考える時期に差し掛かっているように思います。その一方で、自分がこれから何をすればよいのか分からないと感じていたり、やりたいことが多すぎて決められなかったりする人が多いと思います。新しいことと向き合うときにはいつでも、自分のこととの相談が必要ですが、それが意外と難しいですよ。

新しいことを「やる」「やらない」と決めるときには、興味（好奇心）の有無が大きく影響します。例えば、初めて「買い物をしたい」「海に行きたい」「料理をしたい」と感じた時、それは自分でやってみたいと思ったのか、誰かの影響でそう思ったのかを思い出してみてください。何かを始めるときには内発的な興味関心からやってみたいと思う場合と、外発的な影響でそう思う場合とがあります。読みたい本があって本屋に行く場合と、面白い本がないかと思って本屋に行く場合がその一例ですが、これらはそれぞれ異なる動機によって行動しています。心理学の観点から、前者を特殊的好奇心、後者を拡散的好奇心と呼びます。特殊的好奇心とは特定の情報を探し求めること、拡散的好奇心とは新奇な情報を幅広く探し求めることを指します。

皆さんはこれから多くの新しいことに挑戦することになりますが、その挑戦に向けた好奇心は自分で養う必要があります。何か特定のことにのめりこむ前には、拡散的好奇心に基づいて多様なことに挑戦してみると良いでしょう。そこから何か一つでも面白いと思ったら、それは特殊的好奇心であり、深く掘り下げてみる価値があります。一方、既にのめり込んでいるものがあっても、他にも目を向けて視野を広げたいと思っ

たならば、それは拡散的好奇心です。どんなことでも構わないので（夏ならキャンプや海、花火など）、様々なことを経験してみましょう。キャンプをすれば、見たことのない虫に「なぜこんな形をしているのだろうか？」と思うかもしれませんし、海に行けば「なぜ人は日焼けしたがるのだろうか？」と不思議に思うかもしれません。何か一つでも気になれば、そこから掘り下げれば良いのです。

先ほどの例に戻ると、追求したい学問、あるいは、師事したい先生がいるから〇〇大学へ行きたいというのは特殊的好奇心と言えるでしょう。多くの進路に悩む皆さんはかくあるべきと思っているかもしれません。しかし、様々なことに触れてみたいと思うことも立派な拡散的好奇心です。どんな形の好奇心であれ、歩みを止めず、雑食に経験を積むことこそが皆さんの人生の糧となります。

挑戦することで新たな興味や関心が生まれ、それが将来の自分を形成する大切な要素となります。自分の好奇心を大切に、色々なことにチャレンジしてみてください。

（大阪大学 西川広記）

